

デジタル・アーカイブの紹介

「津軽領元禄国絵図写」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「津軽領元禄国絵図写」は、弘前大学附属図書館で初めてデジタル化した貴重資料です。この資料は2008年に長谷川成一附属図書館長（当時）が、未整理の館内資料の調査を行った際に発見したもので、命名も館長によるものです。「豊泉」第29号に発見した時の記事が掲載されています。

国絵図とは、端的に言って国ごとの地図です。江戸時代、数度にわたり、諸国大名への命によって、各所領地の国絵図が江戸幕府に納められたとされています。しかし、天保の国絵図を除き、保管されていた国絵図の大部分は、明治時代の皇居火災により焼失しました。津軽領の国絵図について、資料により作成が確認されているのは正保、元禄、天保の3回です。前述のように、正保と元禄の国絵図原本は失われていることから、弘前大学において発見された国絵図は原本ではなく写であると推察されます。原本が手元に無くなるため、控えとして作成されたのでしょうか。また、絵図にある年号の書き入れ、地名の表記等より、元禄国絵図に該当することが確認されました。

この資料の特徴の一つに、サイズが大きいということが挙げられます。約3.4m×約4.0mと、八帖間より若干大きい位の大きさです。デジタル化するにあたっては、絵図を細かく分割して撮影し、そのデジタルデータをつなぎ合わせて、大きな一つの画像に合成しました。撮影は絵図を広げた状態で行ったので、ある程度広い空間と櫓を組めるだけの高い天井が必要でした。

また、国絵図は、地名や村名等の文字が色々な方向に書かれています。固定の角度では、画面上で文字が読みづらいこともあるので、依頼した業者には図を回転できるようにしてほしいという要望を出しました。拡大機能もついていますので、任意の場所を拡大して読むことができます。

図にある沢山の楕円の中には、それぞれ村名と石高が書かれています。朱色の線は街道を、街道の両側に付いている黒点は一里塚を表しているそうです。現在でも地名が変わっていない地域も多いので、青森県出身・在住の人は知っている地名を探してみたいかもしれません。



余談ですが、この絵図は広げるにも場所を取りますし、広げた状態では中心付近が見づらいため、原寸大の複製を作成するのに加えて、縦横1/2ずつに縮小した複製も作成しました。縮小版の複製は現在、附属図書館の本館、資料館、附属病院に飾られています。

(さいとう かおり)

参考資料

- ・「豊泉」第29号 p.3 「『津軽領元禄国絵図写』について」 (長谷川成一著)
- ・『国絵図の世界』(国絵図研究会編、柏書房、2005年) 本館所蔵有 図書ID:07372972
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/>